

26.6.23
京都新聞
(朝刊)

学識者やバス・鉄道事業者らでつくるNPO法人「『歩くまち・京都』フォーラム」と京都市が、大学と連携し、学生に公共交通の利用について考えてもらう取り組みを始めている。公共交通の便利さをPRするとともに、利点を伝えることで、社会人になってからの乗車を促す狙いだ。

学生に公共交通PR

京都市とNPO、大学と連携

龍谷大深草キャンパス(伏見区)では、4月から地下食堂などに三角柱のポップ(広告媒体)がお目見えした。大学から京都駅経田で嵐山へ行く場合、マイカーよりも地下鉄とJR、京阪利用の方が820円安いと紹介。ダイエット効果や環境面の利点も記した。生協の情報発信や企画立案に取り組む「生協学生委員会深草」が考案した。中心メンバーの2年西山博貴さん(20)は「学生のうちに知っておけば社会人になっても生かせるはず」と期待する。2年西澤若那さん(19)も「学生から『これ、本当ですか?』と聞かれ、反応もいい」と、ポップの手応えを話す。

市は「歩くまち・京都」総合交通戦略で、自動車で移動する人の割合を示す自動車分担率を、2000年の28%から20%に下げる将来目標を掲げる。一方、鉄道は16%から20%に、バスも6%から10%にそれぞれ引き上げ、公共交通優先社会の実現を目指す。

卒業後の利用促進狙う



龍谷大の学生が考案した三角柱のポップ。食堂に置き、学生に公共交通の利用を呼びかけている(京都市伏見区・龍谷大深草キャンパス)

これらの目標を達成するにはライフスタイルの転換が必要となる。若い世代の実践を促すため、NPO法人と市が13年度から各大学に呼びかけ、三つの大学と連携を始め

た。京都産業大(北区)では、叡電や京都バスなどの事業者、市職員を招いたワークショップを5月に開き、学生が利用促進策を出し合った。提案の内容次第では具体化も検討する。立命館大(北区)では市営バス・地下鉄と嵐電の通学定期券をPRするチラシを作成、新生入生に2千枚配った。

NPO法人と市は「ほかの大学とも連携し、取り組みを広げて公共交通の利用につなげたい」と意気込んでいる。(寺内蘭)